

事務事業マネジメントシート

【 評価年度： 令和 7 年度 】

事務事業の概要・基本情報

事務事業名		犬猫との共生・予防対策事業		会計区分	1	一般会計		所管部署	環境政策課												
				予算科目	4	款	1		項	5	目	衛生費									
事業番号		2175		事業区分	政策的事業【任意】			□	重要事業		シート入力	R	4	年度	R	5	年度	R	6	年度	
評価の種別		□ 詳細評価		□		簡易評価（事業の概要・結果のみ）															
総合計画での位置づけ		基本目標		快適空間都市の創造																	
		基本施策		循環型社会構築に向けた環境づくり																	
根拠法令等		狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律、伊予市犬の登録等に関する実施要綱、伊予市犬・猫不妊去勢手術費補助金交付要綱等																			
関係する計画等																					
事業の目的 【ゴール】		対象	犬・猫飼養者																		
		意図	狂犬病の発生及びまん延を防止し、発症すれば致死率が極めて高い本疾病から市民の生命と健康を守ることを目的としている。また、犬・猫の適正な飼養管理を推進するとともに、野良猫の繁殖抑制や地域住民との共生を図ることで、人と動物が安心して暮らせる公衆衛生環境と地域社会の形成を目指す。																		
事業内容 【アクティビティ】		本事業では、狂犬病予防法に基づき、市内の犬の登録及び毎年1回の狂犬病予防注射を実施・管理している。集合注射を実施することで、身近な場所で接種しやすい体制を整えている。また、野犬や飼い主のいない猫への対応として、不妊去勢手術費の補助を実施し、繁殖抑制を図っている。さらに、野良猫への餌やりなどの苦情対応を行うなど、関係機関や地域と連携して地域猫活動の支援にも取り組んでいる。																			
事業の実施方法		□ 直営		□ 一部委託		□ 全部委託		□ 指定管理		□ 補助金・負担金等		□ その他		()							
連携事業及び 関連事業の有無		□ あり（以下に記載すること）		□ なし																	
		事業番号		事務事業の名称				事務事業の概要										【連携事業】 一体的に実施している事業 【関連事業】 関係が深い事業			
本事業とSDGs (持続可能な開発目標) との関連性		□ ゴール 1		貧困をなくそう				□ ゴール 7		エネルギーをみんなに そしてクリーンに				□ ゴール 13		気候変動に具体的な対策を					
		□ ゴール 2		飢餓をゼロに				□ ゴール 8		働きがいも経済成長も				□ ゴール 14		海の豊かさを守ろう					
		□ ゴール 3		すべての人に健康と福祉を				□ ゴール 9		産業と技術革新の基盤をつくろう				□ ゴール 15		陸の豊かさを守ろう					
		□ ゴール 4		質の高い教育をみんなに				□ ゴール 10		人や国の不平等をなくそう				□ ゴール 16		平和と公正をすべての人に					
		□ ゴール 5		ジェンダー平等を実現しよう				□ ゴール 11		住み続けられるまちづくりを				□ ゴール 17		パートナーシップで目標を達成しよう					
		□ ゴール 6		安全な水とトイレを世界中に				□ ゴール 12		つくる責任つかう責任											

前回評価の振返り

評価年度	事業遂行に係る課題・改善点	課題解決に向けた具体的な方策等	左記に対する対応状況
令和 4 年度			
最終判断			
現状維持			

事業活動への投入コスト・人員【インプット】

予算額・執行額及び財源内訳（千円）						事業費の内訳								
項 目		R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求		節	細 節	事業費（千円）				摘 要 ※代表的なものを簡潔に	
									R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求		
予算	当初予算	1,210	1,235	1,230	1,772	例年支出のあるもの								
	補正予算	0	0	842	0		需用費	消耗品費	80	99	113	195	犬の鑑札、狂犬病予防注射済票	
	前年度から繰越	0	0	0	0		需用費	燃料費	14	15	20	22		
	予備費等	0	0	0	0		需用費	印刷製本費	20	22	20	31	狂犬病予防集合注射案内はがき印刷	
	計	1,210	1,235	2,072	1,772		役務費	通信運搬費	238	209	239	272	狂犬病予防集合注射案内はがき郵送費	
決算	執行額	942	1,051	1,931			委託料		138	131	122	220	狂犬病予防業務委託	
	翌年度へ繰越	0	0	0			負担金・補助及び交付金	負担金	30	50	50	50	野良猫（地域猫）対策支援事業負担金	
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0		負担金・補助及び交付金	補助金	400	525	525	960	犬・猫不妊去勢手術費補助金	
	県支出金	87	1	1	2		積立金		0	0	842	0	ふるさと応援基金積立金（地域猫GCF）	
	地方債	0	0	0	0									
	その他	855	880	1,642	1,396									
	一般財源	0	170	288	374	需用費	修繕料	22	0	0	20			
	執行率（％）	77.9%	85.1%	93.2%										
	当初予算＋補正予算に対する執行額の割合（％）	77.9%	85.1%	93.2%										
正規職員の人工数		0.65	0.65	0.65										
1人工当たりの人件費単価		7,794	7,765	7,895		上記以外の事業費合計					2	一般事務費、上記で書き表せないもの		
※ 執行額＋人件費		6,008	6,098	7,063		事業費の総計				942	1,051	1,931	1,772	

事業活動の実績【アウトプット】

活動指標	活動実績の達成度を測る指標		単位	目指す 方向性	R 4	目標 実績	R 5	目標 実績	R 6	目標 実績	達成度		令和 4 年度の振り返り	令和 5 年度の振り返り	令和 6 年度の振り返り									
	指標 ①	犬の新規登録数	頭								事業把握の ための実数		活動 成果 や 課題 等	マイクロチップ装着義務化に伴う畜大登録の特例制度へ参加し、事務の効率化を図った。また、野良猫対策として、不妊去勢手術に係る補助制度の充実に着手した。	前年度から参加している特例制度を活用した届け出が149件あり、事務の効率化が進んだ。一方、不妊去勢手術費補助事業は年度途中で予算上限に達しており、今後は安定的な財源確保についての検討が必要である。	不妊去勢手術費補助事業の財源として実施したガバメントクラウドファンディングにより、842,000円の寄付を得た。また、地域住民からの発案で地域猫活動を開始した地区もあり、こうした活動が継続できる体制整備が今後の課題である。								
					173	150	126																	
	指標 ②	狂犬病予防接種数	頭								事業把握の ための実数													
					1,347	1,393	1,303																	
	指標 ③	狂犬病予防注射集合注射接種数	頭								事業把握の ための実数										課題 への 改 善 提 案	野良猫に関する苦情対応が非常に難しく、特に給餌行為を行う住民への対応に苦慮している。また、引取りや排除の要望も多いが、制度上できない旨を説明しても理解を得られない例があり、県や他市町などの関係機関との連携強化が求められる。	野良猫の不妊去勢手術の申請件数が年々増加している。野良猫の苦情対策の一環として、猫をこれ以上増やさない為に地域猫活動の普及等を含め、地域の活動としてサポートできる仕組みづくりを進めていく必要がある。	人と猫が共存し、不幸な命をこれ以上増やさない「猫のくらしを守るまち」の実現に向け、補助制度の充実や地域猫活動の支援、また住民が野良猫を温かく見られる風土づくりを視野に入れた取り組みが求められている。
					392	397	364																	
	指標 ④	不妊去勢手術費補助件数内における飼い主のいない猫数	頭		50	50	50	目標達成 (100%以上)																
					50	66	62																	

事業活動の成果【アウトカム】

成果指標	想定される事業活動の成果		活動成果の達成度を測る指標		単位	目指す方向性	R	4	目標実績	R	5	目標実績	R	6	目標実績	達成度	左記の指標が設定できない場合は、事業実施によって評価期間内に発現した定性的な成果を記入
	短期成果	法定義務である狂犬病予防接種を身近な場所で手軽に接種することによって狂犬病の発生予防、まん延を防止につながる。	指標①	集合注射での接種率（％）＝集合注射接種数/予防接種数×100	％	→	30			30			30			かなり達成 (80%以上)	
							29			29			28				
	中期成果	地域住民による動物愛護精神の向上により地域猫活動が推進される。	指標②	地域猫活動実施地域数	件	↗	1			1			1			目標達成 (100%以上)	
							0			0			1				
長期成果	飼い主が、犬や猫を飼うことについてその動物の一生に責任を持つことを通じ、人と動物が共生できる安全で快適な地域社会の実現につながる。	指標③	飼い犬・飼い猫の引取り頭数	頭	↘	0			0			0			かなり達成 (80%以上)		
						2			2			0					

事務事業の評価

所管における事務事業の評価	自己判定	妥当性	目的の妥当性	4 上位施策の達成に不可欠な事務事業であり、事業の目的を見直す必要はない 3 上位施策の達成に必要な事務事業であり、事業の目的を見直す余地が少ない 2 上位施策の達成に必要な事務事業であるが、事業の目的は検討の必要がある 1 上位施策の達成に向け、事業の目的の見直しが必要である	3	評価点ランク		A	事業遂行に係る工夫点・事業成果	
			市民・社会ニーズへの対応	4 市民ニーズ・社会ニーズの有無に関わらず、実施する必要がある 3 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが増加傾向にある 2 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが現状維持傾向にある。又は、市民ニーズ・社会ニーズが限定的である 1 市民ニーズ・社会ニーズが減少傾向にある。又は、市民ニーズ・社会ニーズが曖昧である		A	9 ～ 10			
			サービス主体の妥当性	4 本事業は市が直営で実施すべきものである 3 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、適切に導入している 2 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、導入の範囲に検討の余地がある 1 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきだが、導入できていない		C	5 ～ 6			
		有効性	成果指標の達成状況	4 目標を上回って達成できた（100％以上の達成） 3 概ね達成できた（80％以上の達成） 2 やや達成できなかった（50％以上の達成） 1 達成できなかった（50％未満の達成）	3	評価点ランク			A	事業遂行に係る課題・改善点
			成果向上の可能性	4 既に相応の成果を得ているが、今後も成果向上の余地がある 3 成果向上が期待でき、事業継続の必要がある 2 成果は低調であるが、手法等の改善によって成果向上の余地がある 1 今後の成果向上は見込めない		A	9 ～ 10			
			市民等への影響	4 本事業がなくなると、不特定多数の市民・団体等に重大な影響がある 3 本事業がなくなると、特定の市民・団体等に重大な影響がある 2 本事業をなくしても、市民・団体等への影響は少ない 1 本事業をなくしても、市民・団体等への影響はほとんどない		C	5 ～ 6			
		効率性	手段の最適性	4 現状では最善の手段であり、他の手段を検討する必要はない 3 他の手段もあるが、現状の手段が望ましく、改善の必要性は低い 2 現状の手段が望ましいとは言えないため、他の手段も検討すべきである 1 現状の手段ではなく、他の手段に変更すべきである	2	評価点ランク			B	課題解決に向けた具体的な方策等
			コストの最適性	4 コストの削減・効率化の成果により、これ以上、改善の余地はない 3 コストの削減・効率化を適切に進めており、改善の必要性は低い 2 コストの削減・効率化に努めているが、成果が十分ではないため、積極的な改善が必要である 1 コストの削減・効率化の成果が全く得られておらず、抜本的な改善が必要である		S	11 ～ 12			
			受益の適正性	4 事業の性質上、受益者負担を求めるものではない 3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている 2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある 1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない、又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない		C	5 ～ 6			
	担当者									
	一次判定	自己判定結果の確定			☑ 上記のとおり自己判定を確定し、本結果を踏まえて以下のとおり貢献度・重要度を判定します				所属長の所見	
		貢献度	S 市政全体の成果向上に与える影響が、非常に高い事務事業 A 上位施策の成果向上に与える影響が、高い事務事業 B 上位施策の成果向上に一定の影響をもつ事務事業 C 上位施策の成果向上に直接的な影響は弱い事務事業 D 当初位置付けた必要性が薄れており、事業推進が期待できない事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	判定区分	S	非常に高い	A	狂犬病予防接種の集合注射は毎年4月に実施し、一定の成果を上げている。 本市は野良犬がほぼ0となっており、万が一野良犬が発生した場合も、県と連携し迅速に捕獲するなど政策に対する貢献度は高い。		
			重要度		S 市政全体からみても、重要度が非常に高いと判断される事務事業 ※自然災害等の緊急事態に対応する事務事業も含む A 上位施策の視点からみても、重要度が高いと判断される事務事業 B 上位施策への貢献度も踏まえ、目標の達成に向けて現状の計画に沿って推進していく事務事業 C 上位施策への貢献度も踏まえ、統合・縮小を検討すべき事務事業 D 上位施策への貢献度も踏まえ、休止・廃止を検討すべき事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	B			普通	A
						C	低い		また、市内に飼い主のいない猫が増えることを防ぐため、ガバメントクラウドファンディングなどを活用し、不妊去勢手術の補助金を増やし、猫への苦情の緩和に貢献することができた。	
	所属長					D	非常に低い			